

平成22年度 学校評価結果報告書

小松市立 戸城小学校

	自己評価				学校関係者評価		
	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取り組みの状況	達成状況	学校関係者による意見	今後の方向(改善計画等)
① 組織的な学校運営	(教育活動への意識) ・学級経営のみならず、学年経営および、低・中・高各学年のプロア経営を学年主任を中心に考え、総合的な視野で運営に取り組む。	成果指標 各学年の児童の発達段階に応じた教育環境が構築されている。	ほとんどの学年空間が整えられている割合が A: 100% B: 60%以上 C: 30%以上 D: 0%	学年間の交流は、どの学年もよく行われていた。学年集会の場や作品の展示スペースとしてワークスペースも効果的に活用された。中・高学年の共通フロアとしての活用は今後さらに検討の必要がある。	B	授業参観などでワークスペースでの活動を見て、新しいスタイルの授業を体験した。今後も様々な利用方法を試され、新しい校舎に負けない教育実践の成果を上げていただきたい。	学年空間のさらなる充実を図り、学習活動空間としてのワークスペース、教室の充実に向けて。さらに施設の活用方法を試し、先進施設としての成果を外に向けて発信できるように実践を重ねていきたい。
	(授業改善) マインドマップを活用し、授業の中に取り入れ児童の学習活動の改善に努めている。	努力指標 マインドマップの活用を自分の授業の中に取り入れる学習活動を展開する。	マインドマップを取り入れている教員の割合が A: 80%以上 B: 60%以上 C: 30%以上 D: 30%未満	児童の学校生活の中に概ね定着し、授業や諸活動に使用されている。多くの児童の中にはマインドマップの思考方法を不得手とする者もいて、一律の使用には限りがある。また、教科によってはその活用が適さない内容があることもわかり、マインドマップの効果的な活用を模索できたことは大きな成果であったと思う。	A	授業や連絡帳にマインドマップが使われており、子どもたちの生活に広く普通に通じていることがわかりました。思考方法の一つとしてマインドマップを身につけることは、将来にも役立つと思われる今後とも継続してほしいと思います。	マインドマップ講習会を今後も継続して行い、思考ツールの一つとして児童、児童に定着をはかり効果的な使用を促進していきたい。
② 確かな学力の育成	(授業力の向上) 板書計画とノート指導の連携を図り、計画的な授業の実践と効果的な指導による授業力の向上を目指す。	満足度指標 わかりやすい板書とそれを記録したノートが、自分の学習の良き振り返りになっている。	児童のノートが復習できるように整理されている割合が A: 90%以上 B: 60%以上 C: 30%以上 D: 30%未満	児童のノートの整理は90%近く達成されているが、教科によって差が見られる。又個人的な差も見られ、今後ノート検定のあり方を見直し検定に系統的な進化が見られノートにそれが反映される仕組みを考えていく必要がある。	B	学習の基本は先生の板書とそれを写したり、考えたりする道具であるノートであると思います。それらを大切に、学校研究の柱とされていることをうれしく思います。これからも継続され先生方の授業力の向上と、児童に確かな学力が身につく事を願っています。	ノート検定を見直し、検定によってノートづくりが上達できるように系統的な検定項目を設ける。さらに板書計画とも連携させ教師の授業力の向上にもつなげられるよう「ノートと板書」の連携を強化する。
	(集団生活) ・学習の前後の挨拶や授業を受ける基本的な姿勢が全校で統一され、学習規律の確立に努める。	満足度指標 すべてのクラスで授業の規律が達成されている。	授業の最初と最後の挨拶ができていた割合が A: 100% B: 50%以上 C: 30%以上 D: 0%	全学年とも授業規律が保たれ、挨拶等の礼儀も身につけてきている。児童の側からの自主的な挨拶も多くなってはいるが、言葉遣いや態度を最後まで丁寧に聞く場面では今後さらに継続して指導の必要がある。	B	挨拶や生活習慣のしつけは学校の指導だけに頼るのではなく、家庭・地域も学校と連携して取り組む必要があると思います。今後はPTAも協力して取り組んでほしいと思います。	「集積の心」を校訓として、挨拶や言葉遣いなどの礼儀、授業を聞く態度の育成を継続して行う。それと共に校舎内の整備も行い、学校全体の伝統意識を形成していきたい。
③ 豊かな心の育成	(情操環境) ・新校舎において、児童や職員・保護者の心情が和み、優しさや心配りが感じられる教育環境を創造する。	努力指標 職員が創意工夫により、情操と活力が感じられる学校を創ろうとしている。	教育環境の整備がなされている割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	案内表示や掲示設備の設置も終了し、絵画や写真の展示を順次行っている。今後さらに地域やPTAの支援を受け環境を充実させていきたい。	A	校舎内の案内表示や掲示も整備されてきており、様々な工夫が見られると思います。初めて訪問する人にも心配りが感じられる校舎を創り上げていただきたいと思っています。	環境整備にはまだまだ不十分なので、創立220周年を計中間目標として学校、PTA、地域と連携して整備を続けていきたい。
	(健やかな体の育成) ・長休みや、のびのび戸城っ子タイム(昼休み)に外に出て遊ぶことにより、ライフスキルを自ら獲得できるようにする。	成果指標 職員が外遊びを積極的に奨励し、子どもたちに自然な遊びの中で生きる技を身に付けさせる。	取り組みが A: 十分されている B: なされている C: ほぼされている D: あまりされていない	運動場や校舎北側の築山周辺で遊ぶ姿が長休み、昼休み、放課後によく見られる。多くは児童のみでの遊びであり、昼休み以外の時間で、職員がその場に加わるのは現段階では難しい状況である。	B	校地が広いので、その整備には時間がかかると思いますが、豊かなアイデアで子どもたちが楽しめる環境を整えてほしいです。	校舎の環境整備と併せて、児童の発達段階に応じた運動環境を校舎の外内に整備していきたい。
④ 家庭・地域との連携	(PTA・地域との連携) 職員がPTA・地域と連携し、新校舎で学校の特色を生かした教育環境作りに取り組む。(歴史資料館、科学の広場、芸術の回廊、校庭の緑化、教室環境の整備)	努力指標 職員がPTA・地域と協力し、新たな戸城小学校の特色を創ろうとしている。	教育環境の整備がなされている割合が A: 4カ所すべて整備 B: 一部実現、計画策定 C: 計画策定 D: 未計画	PTAが中心となって学校、地域との連携を図り、計画の具体化に向け、3年後の創立220周年を目指し、整備を進めている。	B	PTAとの連携はよくなされていると思います。今後220周年に向けて、地域との連携も深めていってほしいと思います。	施設・環境整備のための委員会を立ち上げ、220周年を1ステップとした中期計画を立て、その実現に教職員、PTAが一体となって取り組んでほしい。
	(ふるさと教育) 集積の心を学び、誇りを持ってその精神の発展に努める心情を育てる。	満足度指標 課題意識を持って学校の歴史や地域の文化や集積の心について学んだことをまとめたり発信したりしている。	取り組みが A: 十分されている B: されている C: ほぼされている D: あまりされていない	戸城小学校の歴史を中心とするふるさと教育を推進することができた。学年によって取り組みの度合いに差が見られ、今後さらに充実を図る必要がある。	B	集積の心を中心に学校や地域の歴史を学ぶことは、郷土の伝統や文化に誇りを持つことにつながると思います。今後も継続して取り組み、子どもたちに集積の心がしみ込まれることを願います。	創立記念ウィークを中心にそれぞれの学年に応じた指導を行う。現在ある本校の歴史や地域の歴史に関する資料を学年に応じたものに編集し、6年間を通して計画的に地域の歴史・文化を伝えていきたい。